



お知らせボード



事務所横の登園チェックの上に、ホワイトボードを設置しています。「きっずノート」の配信状況やクラス・事務所からのお知らせなどお伝えしますので、登降園の際にはチェックしてくださいね。



こどもの日(5日)

こどもの日は、端午の節句または菖蒲の節句とも呼ばれ、古くは田の神を迎え、豊作を約束するための行事でした。

それが「菖蒲」を「尚武」「勝負」と関連させ、男児の立身出世を願う行事となってきました。今日のようにこいのぼりを揚げたり、五月人形を飾る風習ができたのは江戸時代といわれています。この日に菖蒲を使うのは、これが薬草であり、また、とがった葉の形に霊力を感じての厄除けの意味もあります。

昭和23年の新しい国民の祝日の公布によって5月5日を「こどもの日」と定められました。

『園行事 資料と展開』参照

火あそび、だめ!

消さないで
あなたの心の
注意の火



広島市南消防署
警防課 救助係

子どもたちどうしの関りから

4月中旬のある日、各クラスの様子を見に園内を回っていました。いずれのクラスにおいても、新しい環境に戸惑う新入園児の子どもたちは、部屋の片隅で様子をうかがっていたり、不安そうな顔で泣いていたり、「ママがいい〜」などと言ったりしており、親御さんのたくさんの愛情に包まれながら過ごしてきたからこその今の子どもたちの様子だと改めて感じていました。

しばらく園内を回り、みどりぐみ(1歳児クラス)へ行くと、出入り口付近で新入所のT君は私の方へ抱っこを求めて手を伸ばしてきました。知らないおじさんの登場に臆することなく、抱っこを求めてきたからには受け入れないわけにはいきません。私はT君を抱っこすると中央の遊びのコーナーへ座り込みました。T君はしばらく膝の上で泣いていましたが、ティッシュで涙と鼻水をふき取ると泣き止み、机の上にあったおもちゃに興味を示して手に取り遊び始めました。「おもちゃを一つ取って少し遊んで私の膝の上へ」を数回繰り返し、その後、近くにあった風船に興味を示し、持ち上げては振り回し、そして、蹴り始め、その風船を追っかけながら満面の笑みで離れた場所で走り回っていました。

私は少しの間、中央部分でT君の遊びの様子を窺っていましたが、そこへ、おやつを終えたKちゃんが泣きながらやってきて、「すっ」と私の膝の上へ座りました。急なことに動揺しましたが、少し足を曲げてKちゃんが座りやすい姿勢をとりました。Kちゃんは顔をうずめながら「ママが〜うおんうおん。パパ〜うおんうおん。」としばらく私の膝の上で泣いており、泣き止んでくれればという思いから、T君の時と同じように「鼻水取ろうね」と声をかけティッシュで涙と鼻水を拭き取りました。しかし、一向に泣き止む様子はありません。「大丈夫だよ。そうだよね。ママがいいよね。」と声をかけても、うおんうおんと泣き続けています。



木のパズル



ビーズ・コースター

そんな中、続々と朝のおやつを終えた子どもたちが、私たちのいる遊びのコーナーへやってきました。同じく新入園児のH君、おもちゃで遊ぶことに慣れた様子で、すぐに木のパズルで遊び始めました。しばらくするとH君は私の方へ、ひこうきの木のパズルを「ふうん!ふうん!」と手渡してきてくれました。ありがとうと言って受け取り、床に並べると、次に消防車、次にタンクローリー車と次々に木のパズルを渡してきてくれました。その後も、玉ねぎ、バナナなどたくさんの木のパズルを「ふうん、ふうん」と手渡してきてくれます。私は渡してくれたパズルを次々に床に並べていたが、並べている途中に膝の上のKちゃんの手がすっとなパズルへ伸びてきました。その時のKちゃんはすでに泣き止み、目に涙はありません。

それをきっかけにKちゃんは自ら立ち上がり、床に並べた木のパズルを一つずつ、離れたテーブルにある木枠にはめていきました。「これはここだよ。」とこちらへ教えてくれるかのように…。そして、気が付くと今まで木のパズルをたくさん手渡してきていたH君は、少し離れた場所で「ビーズ・コースター」に熱中して遊んでいました。まるで、Kちゃんが泣き止んだことで自分の役目は終わったと言わんばかりに…。

これは、あくまで私の想像ですが、H君は「ずっと泣き続けているKちゃんは、いつも自信を持ってやっている木のパズルが大好き。だから、泣き止むのにはこれを渡してあげればいいんだよ。」と私へパズルを手渡すことで、そっとKちゃんが泣き止む方法を教えてくれたのかもしれない。

今思えば、ほんの数分間ではありましたが、子どもたちどうしの関りからそれぞれの成長を垣間見れた気がします。

4月も後半となり、園で過ごす子どもたちは安心して楽しんでいる姿が多く見られようになりました。

これからも、子どもたちどうしの関わりをしっかりと見守りながら、子どもたち一人ひとりについて職員間でたくさん語り合い、保護者の皆様に子どもたちのそれぞれの“今”をたくさんお伝えしていきたいと思ひます。

第二みみょうこども園

園長

子育て応援メッセージ

抱きしめるだけで
愛は伝わる



子どもはお母さんにギュッと抱きしめられると、そこからお母さんの優しいぬくもりがたくさん伝わって、とっともとっても心が落ち着きます。とくに小さい時はたくさんたくさん触れ合ってください。

著：宇津崎光代「大丈夫だよ
お母さん」より
いろは出版



ありさん、
だんごむしさん
こんにちは。

ぶどうの赤ちゃん
みつけた!!

季節ならではの経験を子どもたちと一緒に身体いっぱい感じています。